

審議会等の会議の記録

会議の名称	令和6年度 伊勢崎市児童館運営委員会
開催日時	令和6年10月28日(月) 13:30~14:30
開催場所	伊勢崎市役所 本館5階 職員研修室
出席者氏名	【委員】 佐藤 明 松本 典子 片柳 博子 馬場 修一 吉澤 卓 松島 志津雄 丸橋 布美代 中村 裕 【事務局】 福祉こども部長 福祉こども部副部長 子育て支援課長 子育て政策係職員 社会福祉協議会企画管理課職員
傍聴人数	0
会議の議題	(1) 児童館の在り方について (2) 児童センターの大規模改修について
会議資料の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・事務局及び社会福祉協議会 職員名簿 ・児童館の在り方について各委員の意見 ・児童センターの大規模改修についてのアンケート実施結果
会議における議事の経過及び発言の要旨	伊勢崎市児童館運営委員会会議 1. 開 会 2. 会長挨拶 3. 議 題 (1) 児童館の在り方についての各委員の意見 (1)について、事務局説明。 (委員) 幼稚園では毎年中学生がチャレンジウィークで訪れている。最近子供と触れ合う機会が家庭でも減っているのでは、子どもと接する楽しさを知ることが出来る機会を増やしたら良い親になるのではないかと。そういった経験を中学生や高校生が出来れば成長にも繋がると思う。 成長すると学校へ行くことが負担になる子どもが出てくると思うが、そういった子が寛げる場所として児童館の持つ自由な環境の中で過ごすことが出来れば自分自身も立ち直れてチャンスが広

がるのではないか。

(委員)

子ども同士が触れ合う場が減ってきた中で経験の場として児童館は良いと思う。学習支援などは現在実施しているのか。

(事務局)

中学生や高校生が夏休みに勉強を教えるといった取り組みは公民館で実施している。児童館においても児童が小さい子どもに勉強を教えたり面倒を見るというのは市の方向としても有りだと思う。公民館でできるなら児童館でも出来ると思うので今後のヒントにしていきたい。

学校に行き辛かったり世代間を越えた居場所については国の方でも子どもの居場所ということで大きく議論されている。その中で例示的ではあるが児童館も挙げられているので委員の皆様の意見と国の政策は合っていると感じる。

(委員)

小さい頃から児童センターに通っていると大きくなってから行っても職員も子どものことを覚えてくれていたりする。親でも学校でもないが自分のことを見てくれる大人がいるのは何かあったときに相談しやすい場所になるのではないか。親としても何かあった際に顔見知りの先生に相談やアドバイスが貰える場だともっと児童館に足を向けるようになると思う。昔通っていた児童が甥っ子や姪っ子を連れてきて遊んだりしているので、学校でも家庭でもないもう一つの場所として親にとっても良い場所になるようになってくれれば良いと思う。

母親クラブの45周年式典をこの前行ったがその時にちょっとしたイベントを実施した。その時に放課後子供教室でコーディネーターをやっている経験から若いお母さんたちに今どきの子ども達を見てどういった変化をしていっているのかという話をしたところ、小さい子どももいて賑やかな状況だったにも関わらずこちらの話を集中して聞き始めた。今のお母さんはスマホ等で情報を得られるはずなのに子育ての生の声に非常に敏感だと思う。そういう意味で世代の違う母親同士が触れ合えて気軽に話す場所になれば良いと思う。

(会長)

成長の過程における親では無い他人の存在は大きなものだと思う。「ドラゴン桜」という以前流行ったドラマがあったが、リアルドラゴン桜ということで現役の東大生で本を書いている人がラジオで語っていたが、ドラマのような低い偏差値の学生が半年の勉強で東大に合格する人は1学年に50~60人位いると言っていた。それがなぜかというとう大学進学はどうでもいいというのが親の本音らしくそれだと子どもはパワーが出ないらしい。しかし他人は無責任に背中を押すことができ、音楽の先生に東大を目指せと言われたのがきっかけで入学した人もいるらしい。親が言っていることよりも他人の言葉に影響されることもある。

(委員)

中高生も含めて子どもたちには伊勢崎の地域の一員である自覚

や自分たちの住む地域をより良くするという気持ちを持っていて機会があれば、あるいは何かしたいと思っている生徒もたくさんいると思うので児童館が何かを企画したら児童館便りで地域に発信するときにボランティアスタッフを募集すれば興味を持った児童が参加するきっかけになると思う。学校以外のイベントに関わる機会がそもそも貴重でその中で自分が役に立ったと思う有用感が今後仕事に就く時に非常に役に立つと思う。なのでそういった場が公民館に限らず市有施設の中であると羽ばたける伊勢崎市民が育っていくのではないかな。

(事務局)

現在児童館の運営は社会福祉協議会が指定管理として実施しているがその中で地域交流事業を自主的に実施してもらっている。令和5年度の例では夏休み宿題支援として学生ボランティア等が20人ほど集まって活動を実施した。そういったなかで地域の子どもの有用感に役に立っている事業というのは社会福祉協議会が主体的に行っているが、今いただいた意見も含めて双方向に役に立てるように今後十分に考えていきたい。

(委員)

殖蓮地区で子ども会をやっているが今年の夏にキャンプをやったが猛暑のせいで外で活動が出来なかったので室内で小学生の子たちを対象にジュニアリーダー、サブリーダーが宿題の手伝いをしてくれた。習字や絵画や作文などを手伝ってくれたが保護者からも大好評だった。こども会で言うと各地区11地区にジュニアリーダー、サブリーダーがいるが彼らは伊勢崎リーダーズクラブをやっている所以他们に依頼をすればやってくれるのではないかな。彼らの多くは先生であったり保母さんや看護師になりたい子が多いので小さい子どもと遊ぶのが好きな子たちが多い。なのでそういう子たちが多いところに頼めば良いのではないかな。

ただ、今の子どもたちは部活や宿題で忙しく全員来るのは難しいが数人で良ければすぐ集まるはずだ。すぐ集まるのであれば冬休みや春休みもやりやすいのではないかな。

(委員)

冒頭で就学前の利用促進が話題に上がったが小学校に上がる前までの保護者で育児に悩んでいて離乳食や食事についての相談が増えてきている。ネットなどにも情報はありますが園に来ている児童については親御さんには伝えられるが色々な親御さんに一言貰えることが安心感に繋がると思う。祖父母が近くにいれば良いが、直接話し合える母親支援が児童館などがあると良い。そこまで制度化せずとも少し話ができる、気軽に行ける場所が児童館があれば育児ノイローゼやそういったところの支援になるのではないかな。

(事務局)

児童館では保護者を対象に育児や発育の不安について少しでいいから声をかけてほしいという声を受けて、昨年度から巡回相談の回数を増やした。我々職員の中から保健師の資格を持ったものが全ての児童館に月一くらいで巡回しており、必要がある方については保健センターや様々な機関に繋いでいる。この活動につい

ては次年度以降も拡大していきたいと考えている。

(会長)

児童館の在り方については過渡期かもしれないが昭和から令和ということで昔の形ではなく新しい方向に進めば良いと思う。

(2) 児童センターの大規模改修について

(2)について、事務局説明。

(委員)

アンケートにもあるが夏は暑くて冬は寒い、冬は上は温かいが下は寒い。夏は全面窓ガラスのためとにかく暑い。先生たちの苦肉の策でスポットクーラーを3, 4台設置してクーラーがついている部屋は送風機を設置して広いところへ冷気を送っている。あとは利用している方から話を聞くとトイレが古いと言われる。狭くて親子で入れず車椅子で入るような多目的な所もなく2階への道も全て階段でエレベーターは無い。皆さんよく利用してくれているが不便を感じているように思う。

児童センターは避難所にもなっているが、近年は災害も多いのに全面ガラス張りの部分もあるのでこれで大丈夫か心配している会員もいる。大規模改修と聞いているが建替えについては考えていないのか。頻繁に利用している身としてはそちらの方が良いように思える。定期的に修繕などしてもらっているがまとめて工事した方が良いのではないか。

(事務局)

運営を委任している社会福祉協議会からも同様の意見をいただいている。福祉避難所としての役割も有しているが、今大規模改修のお話があったが大規模改修というのは一般的なニュアンスと建築課の考えは違って骨組みから直すというのがプロの世界から見た大規模改修を指す。今回委員の皆様にはどちらが良いのかという意見を聞く中で今後の政策的な方向を位置づける決定をする上でのヒントとさせてもらうとともに利用者目線で意見を聞かせてほしいと考えている。その中で同様の意見が複数出ているので参考にしたいと思う。

(会長)

こんなことを聞くのは失礼かもしれないが先生の園は新しい？それとも古い？

(委員)

児童センターよりも古い。こちらも改修を申請しているところなので児童センターもお願いしたい。私の園は築50年にもなるが児童センターが出来た当初からお世話になっていた。その時から冬は寒かったような気がする。

(委員)

広い体育館のようなスペースもありそこでボールを使ったり運動のようなことが出来るのでそこはありがたい。

プラネタリウムもあるので室内でも外の公園でも遊べるし小さい子を連れてお母さんがお弁当を持って午前中から1日利用してい

る時もある。

(委員)

プラネタリウムはまた作る予定はあるのか？

(事務局)

現段階での明確な返答をすることは出来ないが維持費や修繕費が高額になっており電球も特殊なため工事は大変だということで財政当局とも話している。そういったことも含めて今後の考え方を委員の皆様をはじめ市民の方からも聞かなければならないということで今回このような場を設けさせていただいた。

(委員)

伊勢崎市はプラネタリウムがある施設は他にもあるのか。

(事務局)

児童センターのみとなっている。

(委員)

お洒落なカフェがあると人がたくさん来るのではないかな。

(委員)

先ほどの児童館の在りかたというところでワークショップや中高生の場ということで、どういう児童館にしたいかをテーマにして中高生を集めて夢の児童館づくりといったワークショップを開催してみるのも子供たちの意見を集める一つの手段ではないかな。

(委員)

幼稚園児も自分たちで相談して企画から色々と計画してやっていくことが大切だと言われている時代なので小学生や中学生でもそれをやれば楽しいと感じることはあると思う。自分が手掛けた児童館が...となれば愛着が湧くと思うので地域的にも良いのではないかな。

(会長)

今仰られたことは現実的かはともかく、私の大学ではそういうものは全く身についていなく東京の大学というのはニュースとなるような学食やスイーツが美味しいといった話ばかりなので大学生だけでなく近隣住民が寄ってくるようにそのような取り組みをするのも1つの方法だと思う。

(委員)

大学生の生活のなかでも起業する時代になってきていると思う。何人かで集まっていつの時間が空いているから自分が得意な料理を提供するといった取り組みをしている大学があるとネットで見たことがある。料理の話に限らず高校生や大学生がボランティアみたいな形で関わることで起業の糸口になったり、相談しあってやれば楽しいのではないかな。現実的には大変かもしれないが地域の子供達を将来的に起業したりできるように育てる取っ掛かりになるのではないかな。

(会長)

昔では考えにくかったが今はそういった取り組みも見られているので変化を感じる。

中高生が小さい子どもに教えたり、遊び場を通じて学ぶものは馬鹿にできない。子どものそういった力を活用できると良いと思う。

4 その他
質疑等なし

5. 閉会